

会 議 録

会議名	第6回木更津市吾妻公園文化芸術施設整備検討委員会		
開催日	令和7年3月11日（火）	場 所	駅前庁舎8階 防災室・会議室
時 間	午前10時00分～午前11時30分		
出席者	委員：北野幸樹委員長、土田寛副委員長、吉武美由紀委員、青木健委員、 萩本亜矢委員、岩瀬弥生委員、渡辺則行委員、小高幸男委員 事務局：企画部 安田次長 地域政策室 鈴木室長、宮澤室次長、鵜田係長、桑田副主幹、鈴木主任主事 株式会社日建設 土屋氏、大場氏、犬塚氏、渡辺氏、西田氏 （吾妻公園文化芸術施設基本設計等業務受託者）		
議 題	1 吾妻公園文化芸術施設基本設計（案）について		
公開・非公開の別	議題1 公開		
傍聴者数	5人		
配付資料	○会議次第 ○資料1 オープンハウス型説明会、住民説明会の結果概要 ○資料2 市議会定例会総務常任委員会協議会での意見 ○資料3 吾妻公園文化芸術施設基本設計（案）について		
会議概要	別紙のとおり		

【会議の概要】

○事務局（宮澤室次長）

本日はお忙しい中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。

会議に先立ち、事務局からお知らせいたします。

記録のため、録音、写真撮影をさせていただきますので、ご了承ください。

なお、発言される際は、マイクのボタンを押した上でご発言いただき、終わりましたら再度オフに切り替えていただくようお願いいたします。

また、本日の会議は、木更津市審議会等の会議の公開に関する条例の規定により、公開となっております。ここで会議の傍聴を希望される方がおりますので、ご入室頂きます。本日の傍聴人は5名となっております。

【傍聴人入場】

まず始めに、配布資料の確認をさせていただきます。

次第の裏面に配付資料一覧を記載させていただいておりますので、足りないものがございましたらお申し出ください。

よろしいでしょうか。

それではただいまより、第6回木更津市吾妻公園文化芸術施設整備検討委員会を開催いたします。

本日の司会進行を務めさせていただきます企画部地域政策室の宮澤でございます。よろしくお願いいたします。

ここで、会議の定足数についてご報告させていただきます。附属機関設置条例第6条第2項の規定によりまして、会議は委員の半数以上の出席がなければ開くことができないとなっておりますが、本日は10名中8名の委員に出席をいただいておりますので、委員会は成立することをご報告させていただきます。

それでは初めに、北野委員長よりご挨拶をいただきたいと思います。

北野委員長、よろしくお願いいたします。

○北野委員長

皆様、おはようございます。早いもので、もう6回目ということでございます。

その辺まで春が来ているような感じで、ちょっと早く来てこの辺を歩いたんですけれども、富士見通りのアーケードの整備も大分進んで、風通しも良くなり、また空も爽やかに見え、駅から港の方を見ますと、何か新しい未来の木更津が見えてくるような、春が訪れるのではないかなというような印象を受けているところです。

今回6回目、最後の会議ということでございますけれども、これまで皆さんからの色々な意見をいただいて、それに対応する基本設計の案をお作りいただいている中で、もっと継続的に考えなければいけない部分など、色々なところが浮き彫りになってきていると思います。

それを、さらに次のフェーズへ進め、新たな私たちがつくる未来への指針として、今日示すことができればと思っております。

忌憚のないご意見をいただきまして、よりよい基本設計案となるように、今回もお願いできればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（宮澤室次長）

ありがとうございました。それでは早速、議事に入りたいと思います。附属機関設置条例第6条第1項に、委員長が会議の議長となるとありますので、ここからの議事進行につきましては、北野委員長にお願いしたいと思います。北野委員長、よろしくお願いいたします。

○北野委員長

それでは早速ですが、議事に入らせていただきたいと思います。なお、発言される場合は挙手にて

お願いいたします。

本日の議題は1件となっております。議題1、「吾妻公園文化芸術施設基本設計（案）について」、事務局よりご説明をお願いいたします。

○事務局（鈴木室長）

議題1、「吾妻公園文化芸術施設基本設計（案）について」、ご説明申し上げます。

委員の皆様におかれましては、これまで基本設計に関するご審議をいただき、誠にありがとうございました。

本日は、最後の検討委員会として、これまで検討を重ねてまいりました基本設計の最終案について、ご審議いただくものでございます。

その後、いただいたご意見等を踏まえ、最終的な基本設計書として、今年度末までに取りまとめさせていただきますと存じます。

それでは、まず初めに資料1をご覧ください。

前回の検討委員会でご説明いたしましたとおり、先月開催いたしました基本設計の検討内容に関する説明会の結果概要でございます。まず、2月1日に、オープンハウス型説明会を、図書館及び中央公民館を会場として実施いたしました。午前中の図書館では、合計75人、午後の中央公民館では、合計52人の方にご参加いただきました。いただいた主なご意見といたしましては、ホールの音響はしっかりしたものにして欲しい、公園は小さな子供が遊べる広場にして欲しいといったものがございました。

次に、2ページ目をご覧ください。2月16日に、中央公民館を会場として開催した住民説明会についてでございますが、当日は44名の方にご参加いただき、そのうち、36名の方からアンケートにもご回答いただきました。いただいた主なご意見といたしましては、公民館では今と同じサークル活動ができるのか、車両動線と人の動線への対策を考えてもらいたいといったものがございました。

最後に、3ページ目をご覧ください。2月18日に、オンラインにて開催した住民説明会についてでございますが、当日は21名の方にご参加いただき、そのうち、14名の方からアンケートにもご回答いただきました。いただいた主なご意見といたしましては、ホールには音響反射板など、いいものを設置して欲しい、ボール遊びができるような広場が欲しいといったものがございました。

続きまして、資料2をご覧ください。

説明会等でいただいた意見を踏まえ、調整を行った内容について、3月6日に市議会定例会の総務常任委員会協議会において説明を行いました。いただいた主な意見といたしましては、今後の増築を前提とした設計をすることはできないのか、公民館を削るといった検討も必要ではないか、あおぞら広場と常設駐車場の位置を入れ替えてはどうかといったものがございました。

このあと、最終的な基本設計書の案についてご説明させていただきますが、来年度は、実施設計として、今年度で作成する基本設計書に基づき、さらに詳細な検討を行う予定でございます。ホールや図書館、公民館など、文化芸術施設内部の諸室配置や駐車場の設置等につきましては、今後も継続して検討を行ってまいります。さらに、本委員会や住民説明会等でいただいたご意見やご要望につきましても、今年度の基本設計のみならず、来年度の実施設計段階においても、可能な限り反映できるよう、さらなる検討を重ねてまいります。

それでは、最終的に基本設計の案として取りまとめましたものを、このあと、日建設計よりご説明させていただきます。

○日建設計（土屋氏）

それでは、基本設計（案）について、ご説明させていただきます。

【配布資料3に基づき説明（日建設計 土屋氏、犬塚氏）】

○北野委員長

議題1についてご説明いただいたところでございますが、ご意見をいただければと思います。

○萩本委員

4つ質問と意見があります。

まずはこの施設をどういう思いで利用したいかっていうところの話し合いがまだ足りないのかなと思っています。建物やハードの話が多く、利用する身としては置いていかれている感じがして、本当はこう使いたいんですという意見や、どういう風に使うのがこの施設を一番活かすことができるのかという話をもっと深めていってもらいたいと思っています。

2点目は、去年の説明会で、参加した年齢層が高齢の方が多かったということで、未来を担う若者にもっと参加していただきたいという話が出たと思うのですが、前回と比べて、今回は説明会の告知方法や若者の意見を聞くための工夫として、どういうことをされたのかを知りたいです。若者は駅の図書室 FLAT ですとか、スパークルシティの自習室に多くいるので、そういう所を利用している人に直接話し掛けていたりするのでもいいのではないかなと思っています。何月何日にこういう説明会をやりますと文書で発表するなど、ホームページで発表するだけでは結果が出ていないということは、伝わってないことと同じですので、結果を出すための工夫としてどういうことをされるのか、聞きたいです。

3点目は、ホールの楽屋についてです。君津市民文化ホールのように舞台の下手に長い廊下があり、そこに楽屋・練習室等が一行に並んでいると、部屋にいても会の進行状況が把握しやすいというメリットがあるのですが、本案では一部楽屋が裏にあって、奥まった楽屋の人は進行の状況が把握しづらいのではないかと思います。調整は可能でしょうか。

最後に、カフェについて、稲毛海浜公園や葛西臨海公園のような、現在賑わっている公園は、グランピング施設や結婚式場など、複合的な機能を備えており、ただレストランがあるだけでは稼げず、廃れていった過去も考えると、長く人が集う場所というのはカフェを置いただけでは弱いと思っています。やはりどう利用したいかという市民の声や、どうすれば利用したくなるような公園になるだろうかといった話し合いが、もっとあっても良いのではないかと思います。稼げるビジネスモデルも頭に置きながら、カフェも良いですが、まだ検討の余地があるのではないかと思います。夕日が綺麗なのであれば、夕日を見ながら何がしたいのか、どういう時間を過ごしたいのか、といったことを念頭に置いて設計をするべきだと思います。

○事務局（鵜田係長）

1点目と2点目に関連し、まず説明会の周知の方法について、お答えさせていただきます。

昨年度の住民説明会では、ご指摘いただいたように高齢者の方々の参加が多い傾向にありましたので、今回はオープンハウス型の説明会として、我々が出張し、説明をさせていただくというような形もとらせていただきました。そこでは施設を訪れたついでに、説明会に寄っていただく方が割と多かった印象でして、図書館では中学生、公民館では自習スペースにいる高校生から意見をいただきました。

周知の方法につきましても、ホームページや、X、Facebook、LINE等を活用したところでございますが、ご指摘のようにもっと若者がいるところに出張していく形がすごく大事であると思いますので、来年度、実施設計を進める中で、説明会の開催方法についても引き続き工夫はさせていただきますと思います。

○日建設計（土屋氏）

3点目のホールについて、楽屋付近の廊下は、日常的には一般の利用者が通行できたらと考えておりますが、大きな演目の際には、規模に応じてゾーン分けができるような計画としています。その上で楽屋については、まず主役の方はすぐ舞台へ行けるように小楽屋2つを舞台近くに設けています。それ以外の中楽屋や主催者控室について、このプランの意図といたしましては、楽屋だけではなく会議室としても利用する際に、気持ちよく使えるよう、あえて光が入る外壁側に配置しています。また、出来れば突き当りとししない計画の方がよいのではということも考慮して配置しておりますが、管理運営が定まっていない状況でもございますので、現段階ではできるだけ特定のイベントができなくなる、といったことを避けるような設計となっております。今後、ご意見も踏まえ、再検討いたします。

○事務局（鵜田係長）

最後の公園のカフェについてですが、今回、基本設計案としてはカフェと表現しておりますが、この部分は民間事業者に整備や運営をお願いしたいと考えております。そのため、最終的にカフェとなるかも含め、民間事業者との検討になると思っております。

それに向け、今年度は基本設計と並行して民間事業者へのサウンディング型市場調査を実施いたしました。結果といたしますと、13者の民間事業者にご参加をいただき、具体的な意見や要望をいただいております。その中でカフェに事業性があることや、ドッグランが集客性・事業性を含めて可能性があるという前向きな意見もいただきました。また、それ以外にもスポーツ広場をフットサルコートやテニスコートとして活用するなど、幅広いご意見をいただいておりますので、この結果を踏まえ、来年度、より具体的な検討を進める段階であると思っております。

○北野委員長

どう利用したいかということも含めて、引き続き様々な形で市民の皆さんのご意見をお聞きしつつ、あわせて実施設計を進めていくこととなりますので、例えばですが、学校に直接出向いて説明をしてしまえばよいのではないかと率直に思いました。そのぐらい投げかけることによって、子ども達が10年後20年後に自分たちがここに住み続けるのだと思ってもらうために先導していける公園になってもらえればと思っているところです。

また、民活の部分はこれからのことですが、可能性ある提案のための余白をいかに残しておくかというのはすごく大事であり、今ご提案いただいている内容は、民活として、5年後10年後15年後にどのように使うのかという部分に目が向けられているので、そこを含めて検討がなされるべきかと思います。

なお、最初に説明いただいた駐車場の配置案についてですが、建物に近い場所ということで、1案目は西側通路上に30台ぐらい配置したものでした。ただ、これだと計画上好ましくない。そこでスロープの位置を調整することで30台程度西側に確保し、当初の考え方を変えずに建物まわりの駐車場を増やせるというのが2案目でした。これに関してはいかがですか。

○小高委員

まず、紫色で示している箇所に駐車場を置いた場合、すぐ隣には搬入路もありますが、あおぞら広場はどのぐらい面積が減るのでしょうか。また、東西何メートル南北何メートルぐらいの大きさを見込んでいますか。それから、西側園路沿いに縦列駐車計画となっていますが、あおぞら広場と同様に、クロマツ広場に配置することはできないのでしょうか。

○北野委員長

まず、私の認識でいくと基本的に縦列駐車案はないのではと考えています。1案目の絵をお出しいただいたのは、無理やり収めようとすると最大で30台程度停められる算定であることを示しており、このような駐車場計画となってしまうのであれば、2案目の方が本来の建築計画としてあるべき計画だという説明の流れだと認識しています。基本的には公共空間で縦列駐車はないのではと思います。

○日建設計（土屋氏）

北野委員長のご指摘のとおり、建物まわりの駐車場の不足という課題に向き合うにあたり、まずスペース的にどれだけあるかお示したのが1案目となっています。この西側園路が常に駐車場となってしまうのか、あるいは普段は駐車場とせずイベント時のみ駐車場とするのか、また道路上の駐車はなしとするのか、皆さんと議論するために検討してみた次第です。これを積極的にご提案しているわけではなく、2案目であれば、機能的には充足できるのではと考え、ご提案した次第です。

クロマツ広場につきまして、もちろん既存の木を切り倒してでも駐車場を確保することも技術的には可能なのですが、やはり今ある風景を少しでも残す、港の風景に馴染んでいるこのクロマツを活かすという元々の発想からしますと、なかなか難しいことだと考えています。判断の上では数字より

もどういう広場にしたいかという点が重要と思います。また、メインとなる大屋根広場に対し車がお尻を向けて止まるような風景はふさわしくないのではないかと考えています。

○日建設計（犬塚氏）

あおぞら広場の面積と延長についてですが、面積については400㎡ほど少なくなります。また延長については駐車台数30台で駐車ますの幅が2.5mですので、80m近い延長の並びになるというふうにご理解いただければと思います。

○土田委員

敷地南側の道路は市道でしょうか。また進入した先の道路が港湾用地ということであれば、車両の制御ができないため、南側からも車の進入の可能性があるということだと思いますが、市は今後どのようにコントロールしていくかということも含めて計画しないと整理しないのではないかと思います。

また70mのスロープで、新しいご提案の搬入用の斜路と、従前計画の車両の幅が大分違うように見えるのですが、単純に長辺5.5mの車室であったとしても、構造物としてももう少し厚みがあるような気がしており、現案だと斜路途中で車両がすれ違うことは不可能ではないかと思ってしまうくらい薄く感じます。そういう意味でいくと、駐車場配置案の2案目は潰れてしまうという方向で考えた方がいいのかなと思いました。

また建物施設北側のところのテラスまでの勾配がかなり急であり、崖には見えない程度の斜面緑地ですりついていますが、それが搬入路の斜路で唐突に切れて、コンクリートの壁が建つととっても殺風景な港に來たなっているイメージを持ってしまうため、テクニカルチェックも含めて、もう少し落としどころを考える必要があると思います。お金の問題はありますが、斜路と駐車ますがオーバーラップできる等、もう少し上手い建築的処理が考えられそうですので、いずれにせよもう少し工夫していただけると良いかと思います。唐突に土木構造物が出てくるのは避けたいところです。

○日建設計（土屋氏）

あおぞら広場の見え方については今まさに検討しているところで、土田委員がおっしゃったとおり、スロープに対して斜面がすりつくような計画にしようと考えています。

○北野委員長

もう1点、北東部エントランスのバリアフリー改善案として、エレベーター設置のご提案があったかと思いますが、それ関しては、何かご意見はございますか。

○小高委員

バリアフリー動線のためのエレベーター設置についてですが、このエレベーターに乗るとなると、駐車場からあおぞら広場を突き抜けていく必要があるということですね。そうなった場合、例えば駐車場から高齢者などはカート引いたりする中で、わざわざあおぞら広場を通る必要があるのでしょうか。もしくは、東側のスロープを通して、エレベーター前だけ舗装し、あおぞら広場を通らないような道を作るのかという考え方もあるかもしれません。ただ、そもそも1階フロアに上がる入口をつくる必要があるのかちょっと気になっています。例えば、図書の盗難防止という観点では、出入口が追加されることによって、設置するゲートが増えてしまうことも考えられ、当然そこにかかるコストがかかります。将来的に継続して使う施設である以上、本当にそこにエレベーターが必要なのかなと思ってしまいます。

もう1点、エレベーターといえば、搬入用のエレベーターがあると思いますが、その大きさが分からないです。大型の道具や機材なども運べるような機能を持っているのか、数人程度乗るだけのものなのかというのが図だとわからないので、そういった面でもエレベーターの活用は、建物の中も含めて考えられた方がいいのかなと思っています。

○日建設計（土屋氏）

あおぞら広場を横切るという想定ではなく、あくまでも舗装をされている部分を通してエレベーターに向かうという動線を考えています。北東部の入口を設けている理由につきましては、例えばホールで貸切利用を行っていても、別の用途でスタジオの利用が可能で、そこにすぐにいけるといったメリットがあります。もちろん避難の観点も重要ですが、日常的にも便利だと考えての提案です。

また、エレベーターの大きさについて、大きな荷物用のものとは考えていなくて、あくまでも荷物の搬入は、北西側のスロープでと考えています。

○北野委員長

今の説明のとおりで、私も委員会を通して使われ方のパターンを示すべきであったと反省しています。具体的には、ご説明のように、上のホールを使用する際に、ホールから下のホワイエ2とか書いているところは公民館として使用する等、違う使われ方ができる様子を、絵として A、B、C ときちんとパターンを全て示すべきであったと思いました。そうするともっと理解度が高まり、イメージも膨らむため、これからの実施設計に向けての提言にも繋がっただろうなと思うところです。

また、エレベーターの件ですが、本来は当初から説明があるように、ホールのホワイエは大屋根広場だと思っており、必ずここで利用者は顔を合わせて、さあ、私はホールへ、図書館へ、公民館へと向かっていくような、新たな複合利用の仕方を提案されている施設だと思います。あえてエレベーターを外に出す必要があるのかというのは、これからも議論していくべきだと思うのですが、必須条件ではないようにも感じているところです。ただ、利用者側としてその位置にエレベーターがあるべきだとなった場合に、プラスの思考で考えることはこれから必要かもしれませんが、必須のアイテムではないというのが正直なところだと思います。したがって、別の機会になってしまうかもしれませんが、今後利用パターンを複数提示する必要があると思いました。

○土田委員

なぜこの北東側の入口にバリアフリーが必要になったかというのは、僕の理解としては次のとおりです。常設駐車場に停める際に、ちょっとした事情通は広い方ではなく、入口に近い建物まわりの駐車場を利用しようとなりますが、行ってみたら空いておらず、引き返すなどの行動が発生すると思います。そうすると、最初から停めたい場所に停められなかったというのが、初期心理として残りえます。そのうえで、例えば雨が降っているのに、近くに駐車場がなく、遠くから歩かされた上に、駐車場と反対側の南側の入口に回されたという感覚が残ってしまい、嫌な気分になりうるのではないかということを、どなたかが懸念されていたのではないのでしょうか。それを踏まえて、あまり歩く距離を長くしないよう、北側からもアクセスできる場所が必要ではないかという流れだったと認識しています。そういう意味でいくと、エレベーターでなくてもつづら折りみたいなスロープでもいいから、北西部で1階までバリアフリー動線で導くみたいなあり方でもよいのではないかと、エレベーターではない方策を考えるのも良いのではないかと思います。

○北野委員長

この大屋根に繋がる外のプロムナードと、施設内で外のプロムナードに平行に進む中のプロムナード、2つでセットになっていることが大事であり、他にも類例がないことだと思っているのですが、その道を大事にするとしたときに北東部のアプローチをどうすべきかという話については、色々な処理の仕方があるように思います。このアプローチについては継続で検討いただきたい事項です。よろしくお願いいたします。

○岩瀬委員

中のプロムナードについて、ホール利用時であっても東側の会議室等は利用できるということでしょうか。結構うるさくならないのか気になります。

○北野委員長

その点も配慮してホール側面にトイレ等のバッファゾーンを設けていると理解していたのですが、いかがでしょうか。

○日建設計（土屋氏）

遮音につきましては、ホールやスタジオはそれぞれ遮音性能に配慮した壁の仕様になっているとともに、間に廊下を挟んでいますので、騒いだ音がガンガン漏れ聞こえるということはないと考えております。

○岩瀬委員

室内に入るとそうだと思うのですが、出入りするときに廊下で喋ることは必ずあるので、その音が聞こえてしまわないか心配しています。

○日建設計（土屋氏）

舞台北側の部分については、例えばスタジオを別の方が利用していたとしてもその間の廊下にはいけないように区切れる計画と考えておりまして、舞台裏の廊下には関係者以外は入れないようにします。今回、説明用の図面を用意できておらず恐縮ですが、区切り方のパターンの検討はしておりまして、イベントのサイズに応じた区切り方ができるようにいたします。

○土田委員

関連して、勝手な想像ですが、あおぞら広場側のステージは、楽屋から直接出入りができるため、若者などはステージで音楽を演奏したりしたいだろうと思います。そうすると、今のステージの奥行では、のびのびと演奏できないのではないかと、さらにはステージから落ちてしまわないかという心配があり、十分に張り出しを確保していただきたいです。ホールでこけら落としをしている時に大屋根広場でもイベントがあり、あおぞら広場側のステージでは屋外フェスでもやるくらいの幅を持たせてくれると面白いかなという思いつきでした。

○北野委員長

当初からそういうイメージですよ。ですので、今指摘のあったステージの幅員についてはぜひご検討ください。その他に何かございますか。

今回ご提示いただいている案が最終案ということではなく、基本設計のこれまでの取りまとめとして、次のフェーズにいくための指針であること、これを今後より詰めていって、これまでご議論いただいた内容を完成形にしていくという内容です。

本当に申し訳なかったのですが、使われ方のバリエーションについては本来、当初よりきちんと説明しておくべきだったと大きく反省しております。こちらは実施設計において、広くみなさんに公表しながら、市民の方のご意見をいただきたく段階できちんと説明していければと思います。

○土田委員

最終回の委員会だということなので、なかなか突飛なことばかり言っていて、事務局も委員の方々も、設計者の方にも、混乱ばかり招いてしまい、大変申し訳なかったと反省しております。

最後にちょっと感想めいた話を1つしますと、事務局も設計者も総じて愛が足りないと思っています。愛が足りないというのは、とても抽象的な表現ですが、新しい市民の拠点となるものを生み出すときの愛情と労力は、先ほどの若者の意見を聞いてはというご意見とも連動するのですが、苦勞し過ぎるということはないので、ぜひ実施設計にはより一層苦勞していただきたいと思います。

特に建築のデザインというのは、古代から実は政治と権力の道具であると言われていて、2025年のこの時に、木更津市が複合施設をつくるという、まさに一時代を後世に伝えていくために、何がどう考えられて、どういう結果だったのかというプロセスを、地域の文脈として刻み込むようにすることが大事だったと思い、反省しきりです。それを僕も含めて、総じて愛が足りないと表現させていただいたところです。

大屋根広場が、オープンではあるが、屋根の形状がだんだん図面として出てくると、天井の高い両国国技館のようなデザインになっていて、あんなにかついデザインで市民に愛される施設になるのだろうかというのが正直なところです。あれだけ大規模の構造物が、技術力を疑っているわけではな

いですが、南東の角のところとか柱が全くない中で庇まで出ていて、地震がきた際を考えると少し不安を感じました。市民が集まる防災拠点として整備する以上は十分な構造性能を確保していただきたいです。

今日は14年目の3月11日で、この日に最終委員会があるのは、何かの因縁かなとも思いつつ、今回のようにレベルを上げることで防災に繋げるというのは、時代性を反映しているなどは思っていました。市街地などは作り込まれ過ぎていて、災害復旧時のためのニュートラルな空間が少なく、そういった意味では何もしない空間であるあおぞら広場や常設駐車場は、実は使い勝手がよいということが、能登の時も含めて、徐々にわかってきていることなので、これらの空間のニュートラルさ加減は良いと思いました。ただ、やはり公園部分へのお金もない中で、色々な意味で寂しい絵になってしまっているので、炊き出し用のコンロに変わる施設やバーベキューコンロなど、災害時に留まらず、市民が日常使いして集うことのできる空間が必要だと思いました。災害時に困るのは、水とトイレと食べ物であり、そのような設えがあると、昨今のキーワードである予備防災の日常化というのが実現できるのではと思います。この空間が日常使いされているからこそ、災害時の使い勝手が理解されているということが大事であり、それがコンセプトとして共有されていれば良いと思いました。

○北野委員長

辛口の土田委員からとても真摯に真面目なご意見をいただいて、ちょっとびっくりしているところですけども、まさしく委員がご発言したように3.11から、避難する時は日常空間じゃないと分からないということから予備防災のあり方を学びました。ここが日常的に使われているからこそ、いざ災害があった時に使い方を理解しているというのはとても大事なことです。だからこそ、この公園は日常的な居場所を創出するというコンセプトから始まっていると思いますし、木更津市の拠り所でもあると思うので、ぜひそこを忘れないでいただきたいと思います。

少し振り返りますと、資料2で市議会からのご意見をいただいており、公民館を複合化しないといったことや、広場と駐車場の位置関係について書かれておりますが、この委員会としては、今までそういった議論を積み重ねて今回の基本設計案として指針を示しているところですので、それをご理解いただきながら、継続的に案をブラッシュアップしていくということでご認識いただければと思います。

そろそろ時間というところですけども、今回が全6回の取りまとめということで、これが最終決定案ではございませんが、今回の案をもとに、次のフェーズの実施設計に進んでいきます。今日、色々なご意見をいただいて、課題もまだまだありますが、検討を深めたらもっといい案になると思います。

先ほどの駐車場からのアクセスや、3mのレベルまでのアプローチの仕方など、空間の使い方のバリエーションがきちんと示されているのか。それから具体的に内部の細かい空間の構成、機能、利用だとか、そういったことがきちんと市民の方々に示されているのか。さらには、いざ災害が起こった時への対応がきちんと盛り込まれているのか。また、カフェなど稼げる民活を利用した時に、それが長く活用されるために、どう埋め込んでいくのかということも含めて、本委員会から次のフェーズへの検討すべき事項として、遺言ではないですが、提言として残していくということでご理解いただければと思います。

それでは、1回から6回にわたって様々な議論重ねていく中で、日建設計さんには色々ご対応いただいていろんな案を検討いただいて示していただいて、その繰り返しの中でよりよいものに進んできたと思います。私や土田委員も含めて、厳しい言い方をしたことも多々あるかと思いますが、実は多分ここに参加されている委員の皆様は愛があります。木更津愛がいっぱいあるだけなので、この愛を次のフェーズ2へ送りたいなと思っています。それでは長時間にわたり、ありがとうございました。

事務局におかれましては、今お話ししたような内容を、さらに重ねていただいて、市民の皆さんにとってよりすばらしい公共施設、いわゆる新しい公共施設の未来像を描いていただければと思います。

本日、6回まで活発なご議論をいただきまして、本当にありがとうございました。

以上をもちまして、議長の任を解かさせていただきます。

これまでご協力ありがとうございました。

○事務局（宮澤室次長）

北野委員長、ありがとうございました。

それでは事務局を代表いたしまして、安田企画部次長よりご挨拶申し上げます。

○事務局（安田副部次長）

事務局を代表しましてご挨拶申し上げます。

委員の皆様におかれましては、今年度、基本設計の業務委託に係る事業者選定から、基本設計の内容に関するご審議まで、多大なるご尽力をいただきまして誠にありがとうございました。心より御礼申し上げます。

本市としましては、本委員会での検討結果やご提言を踏まえ、3月末までに基本設計を取りまとめ、委員の皆様に言われましたように市民の声をさらに聞きながら、学生の中に飛び込んでお話を聞くようなそんな機会を加えさせていただければと思っております。

吾妻公園文化芸術施設が、子供から高齢者まで多世代が気軽に集い、学び、憩える、心地よい空間となるよう、令和10年度の供用開始を目指し、今後も着実に事業を推進してまいりたいと考えております。

結びになりましたが、委員の皆様方の今後益々のご健勝をご祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。誠にありがとうございました。

○事務局（宮澤室次長）

委員の皆様におかれましては、昨年5月から6回に渡る会議においてご審議いただきまして、誠にありがとうございました。

それでは、以上をもちまして、第6回木更津市吾妻公園文化芸術施設整備検討委員会を終了させていただきます。

本日はありがとうございました。

第6回吾妻公園文化芸術施設整備検討委員会の内容について、上記のとおり確認する。

令和7年4月2日

木更津市吾妻公園文化芸術施設整備検討委員会委員長 北野 幸樹